

# 10月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
みかん類		15,303	103	15,761	162	115	173	-	-	熊本、長崎、愛媛産中心の入荷となる。熊本は生育前進傾向で、極早生品種が9月19日から入荷開始となった。10月上旬まではS、2Sサイズ中心であるが、中旬以降はS、Mサイズが中心となる。長崎は10月1日頃から入荷開始となる。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。
りんご類		7,894	101	8,367	246	109	253	1,344	17.0	青森、長野、山形産中心の入荷となる。品種はふじ、シナノスイート、秋陽など種々出揃う。各産地ともに早めに夜温が下がったことで、着色は順調に進んでいる。果実肥大も概ね良好。全体の入荷量はほぼ前年並み、価格は前年をかなり上回る見込み。
りんご(ふじ)		2,561	102	2,086	257	115	288	560	21.9	青森、山形産中心の入荷となる。青森の弘前ふじは10月上旬から入荷が始まり、中旬頃にピークを迎える。果実肥大は平年並みで、36、40玉が中心となる。山形は作柄良好で、入荷量は前年並みとなる。全体の入荷量はほぼ前年並み、価格は前年をかなり上回る見込み。
かき類		10,097	84	9,357	209	123	241	71	0.7	和歌山、奈良、新潟、愛知産が中心となる。種なし柿は和歌山、奈良とも生育は順調で、生育は前年より1週間程度早まっている。前年は厳しい残暑のため着色が遅れ、10月の入荷量が非常に多くなったが、今年は9月の出荷ウェイトが高くなった分、10月の入荷量は前年の80%程度となる。全体の入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
ぶどう類		3,417	95	2,303	629	118	667	246	7.2	長野、岡山、山梨産が中心となる。品種は巨峰、ピオーネ、アレキサンドリア、シャインマスカットなど。長野は生育順調で、果実肥大も良好で大房傾向。岡山も生育順調で、果実肥大、糖度ともに良好。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
メロン類		1,062	102	1,047	359	99	412	76	7.2	茨城、北海道、静岡、山形産が中心となる。品種はアールス、アンデスなど。茨城は生育順調で、9月上旬～10月上旬が入荷のピークとなる。静岡は生育、品質とも良好で、入荷量は前年並みとなる。全体の入荷量、価格ともほぼ前年並みの見込み。
西洋なし(ラ・フランス)		315	97	685	314	100	280	132	41.9	山形、長野産中心の入荷となる。山形は着果良好で、入荷は10月末頃からとなる。長野も着果良好で、10月中旬頃から入荷となる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並みとなる見込み。